

1 地方分権の推進について

知事は現在、地方分権の推進について賛成なのか反対なのか。賛成の場合、なぜ必要なのか、知事の考えを伺いたい。

（知事答弁）

地方分権の推進についてのご質問がまずございました。地方分権の推進について賛成なのか反対なのか、なぜ必要なのかという私の考えをお伺いになりました。

私は、「地方分権」は必要だと考えております。「地方分権」と言った場合、「分権」の「権」の字は、「国の権限」ということになりますが、私の解釈は、この「権限」の意味は、「責任」と同義だと思っております。つまり、「地方分権」の議論は、地方はどのような責任を持つべきかという議論です。

地方は分権が実現した場合、これまで国が果たしてきた責任を我々地方が担うんだという覚悟をすることが出発点になると思っております。

尾崎議員の「地方分権」の必要性についてのお問いかけがございましたので、3つの視点からお答えを申し上げたいと思います。

まず第1の点は、わが国の発展の形、国力向上のパターンでございます。

わが国はこれまで、中心となる大都市がわが国の経済発展の中心となり、周りがそれについて行って発展する形を基本としていました。雁が飛ぶ形に似ているので、「雁行型」と呼ばれていました。

産業につきましても、基幹産業を中心に系列を作り発展するという同様の形を得意にしていました。

別の言い方をすれば、「集中と展開」を発展の原動力にしていたように思います。早稲田のラグビーも同じ言葉を使っておられました。この形はもう通用しない時代になっていると思います。

今後、我が国が発展するためのキーワードは、私は、「自立・分散・連携」だと考えています。

各地方が自立心を持って、せつせと実力を高めることにより、「集中型」ではなく、「分散型」の国家発展が可能だと考えます。その際、「地方の自立は国が応援すること」、「災害等に備えて国力を分散すること」、「地域と地域が交流によって学び合い、連携すること」が大事だと考えております。

国の権限を地方に移譲するだけで、地方が発展するわけではありません。地方がそれぞれ持つ「自立心」が基本の原動力となります。自立する心を持った地方が国を助けるといった「地方分権」が必要だと考えます。

第2の点は、グローバル化が進む中での「地方分権」の内容でございます。グローバル

化の良い面も多いのですが、最も大きな心配は、雇用が海外に逃げること、格差が拡大することです。

T P P交渉など中央政府がわが国の国益を考え、国論を統一して、対処していただきたい面と、グローバル化対応のための、必要な地方分権を国に行っていただきたいと思う面があります。

後者の例で言えば、例えば、地域雇用の確保のために、「ハローワーク」のノウハウと権限を地方に移管して欲しいと思っています。

グローバル化の弊害を阻止するための国の役割の強化と、地方の能力強化を分権の形でそれぞれ行っていただきたいと考えています。グローバル社会における国と地方の役割分担を明確にするということでございます。

第3の点は、地域間格差を助長するような「地方分権」はできるだけ避けて欲しいと願っています。

例えば、地方分権の大きな柱の1つであります「税源の移譲」がございます。単純な「税源の移譲」では、税源の大きい大都市に税収が集中してしまいます。

奈良県のような税源の小さい地域にも公平に税収を配分するのは国家機能であります。都市と地方の格差是正は、どの国でも基本的には中央政府の役割であり、「地方分権」だけでは達成できません。

社会保障の現物給付など、地方が行うべき責任を割り振ったうえで、必要な財源を国が配分すべきで、地域間の財政力格差が大きいままで、まず税源を移譲し、税収に応じて社会保障給付を行うとすると、税収の多い地域だけ社会保障が手厚い結果となり、不公正な社会になります。

まとめて言いますと、何のために、どのような権限、これはすなわち責任になりますが、これを地方に移譲するかを明確にしておくべきだと考えています。何のためにという地方分権の理念がまず必要だと考えます。